

山梨・上窪遺跡 かみくぼ

- 1 所在地 山梨県中巨摩郡玉穂町下河東字天神木
- 2 調査期間 二〇〇三年度調査 二〇〇四年(平16)二月
- 3 発掘機関 玉穂町教育委員会
- 4 調査担当者 今村直樹
- 5 遺跡の種類 居館跡
- 6 遺跡の年代 一三世紀～一五世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(甲 府)

上窪遺跡は甲府盆地中央、釜無川と笛吹川の合流地点にほど近い釜無川扇状地扇端部に位置している。区画整理事業に伴い二〇〇一年度から発掘調査を開始し、平安時代後半から室町時代までの遺構を確認している。今回報告する笹塔婆は、二〇〇三年度の試掘調査時に出土したものである。同調査では、設定したトレンチと平行して溝跡が確認された。その後の周辺調

査でこの溝跡は方形にめぐる区画溝の北面の一部であることが明らかとなった。区画の規模は東西約三三m、南北は推定四五mの長方形を呈し、ほぼ正方位に軸を合わせている。区画内では試掘調査が実施されているが、遺構は確認されておらず詳細は明らかでない。

笹塔婆は、北面の溝のちょうど中央部分から、かわらけ・石製品・礫とともに一二点出土した。これらは重なった状態で一カ所から全てが出土した。周辺では、三点一組となるような状態で、かわらけが五カ所から出土している。かわらけは全て口唇部を欠き、周囲には煤の付着した礫が散在していた。これらのかわらけは一三世紀のものと思われる。

笹塔婆が出土した区画溝の北にも、同様の区画施設が隣接している。こちらは一边が六五～七〇mの正方形で南北軸が東へ若干振れ、区画内には掘立柱建物が配されている。時期は一四世紀後半から一五世紀にかけてと新しく、笹塔婆出土溝とは時期を異にする。両者の関係など、詳細は今後の調査整理作業を待つこととしたい。

8 木簡の积文・内容

- (1) ・「南无毘沙門天王

・「南无〔毒蛇カ〕鬼神

(114)×19×2 061*

(9) ・「南」×

・「南カ」
×

(20) × (16) × 2 061

(10) ・「南」
「无カ」
□ □ □ □ □ □

・「无カ」
× □ □ □ □ □

(24) × 19 × 2 061

(11) □

(42) × 15 × 3 081

(12) □ □

(16) × (5) × 1 081

(1)~(4)は頭部を圭頭状にし、(1)(2)(4)は左右二カ所ずつ、(3)は一カ所にそれぞれ切り込みを入れる。下端に向けて徐々に細くなっているが、下端が完存するものがないため、端部の原形は不詳である。

墨書の残りは良好なものが多く、「南无」に続けて毘沙門天(1)、大日如来(5)(6)の仏名、蛇毒(毒蛇)鬼神(1)(5)、武答天神(3)(7)、八王子(4)などの中世牛頭天王信仰に関わる神名が両面に記される。表裏の組み合わせは一様ではなく、表裏は任意である。(11)(12)も本来笹塔婆の一部であったとみられる。神仏名の笹塔婆への記載は、神仏習合の中世信仰世界を遺物で実証できる貴重な資料といえよう。

なお、木簡の釈読にあたっては、奈良文化財研究所史料調査室の方々のご教示を得た。
(今村直樹)